



生田緑地マネジメント会議ニュースレター

発行日: 2023 年 9 月

発行者: 生田緑地マネジメント会議事務局

令和 5 年度 第2回運営会議を開催しました



会場の様子

令和 5 年 9 月 29 日(金) 17:30~19:30

生田緑地東口ビジターセンターにて本年度第2回運営会議が開催されました。参加者計 52 名(うちオンライン参加者 8 名)、参加団体数 17 団体+委任状 11 団体、計 28 団体となりました。

◆報告事項

1. 生田緑地を拠点とした地域共生社会の実現に向けた生田緑地及び各施設。3館アンケート調査協力をお願い。田園調布学園大学 和教授
生田緑地が地域共生社会の拠点として位置づけられるということについて研究課題としています。生田緑地の自然を体験して感じたことについて

緑化フェア前年度の本年、プレイベントとして、皆さんからのアンケート収集を実施したくご協力お願いします。

11月24日(日)より中央広場の竹ドームの中で開始しており、既に1200名分のアンケートシールが貼られています。

2. 自然環境保全管理会議からの報告 自然環境保全管理会議事務局

7/10 に第一回の自然会議を開催しました。

①岩田会長よりナラ枯れを踏まえて生物多様性を考える市民部会を立ち上げたいとの提案があり、既存の里山倶楽部は活動団体とする中で、別途、植生や生物を調査するための団体として承認されました。

②井口副会長より緑化フェアと自然会議をつなぎ、生田緑地の持続可能な自然環境保全活動のパートナーとして、企業の社員を対象に、企業内 SDG's、CSR 部署、福祉部門と連携する仕組みの構築の提案がありました。

③「生田緑地における実生の山採りガイドライン」について国土館大学磯谷氏から改めて発議、今回合議されました。

④ナラ枯れ伐採 令和 4 年度報告と令和 5 年度予定の報告

⑤日本民家園運営基本方針策定にあたり、従来の「植栽」に「植生」を概念として追記することとなりました。

⑥生田緑地ビジョンについての説明を行いました。

3. 緑化フェア&プロジェクト進捗 緑化フェア推進室&プロジェクトリーダー

・生田緑地は3つのコア会場のひとつとして、これまでの協働の取り組みを活かし、歴史文を楽しみながら自然とのつながりの中で、自然を感じ楽しむことのできる機会を提供し生田緑地の持続可能性につながる取り組みを展開、東口から中央広場を経て西口広場に至る間で主なメインコンテンツとなる演出を展開します。(緑化フェア推進室)

・今までに 10 回のプロジェクト会議を行ってきました。これからはそれぞれのプロジェクトをロードマップに添って進めていくことになります。(井口リーダー)

4. 生田緑地ビジョン改定&プロジェクト進捗 みどりの事業調整課/プロジェクトリーダー

・生田緑地ビジョン改定に向けた基本的な考え方の説明。

来年度については、一部誤解を招くところがあったので、改めてご意見を伺いながら修正を行います。5 つの課題を掲げ、8 つの視点をもって施策の基本方向を示します。文章だけではわかりにくいので、ビジュアルにも留意した示し方を用意して 9 月 30 日開催予定のオープンハウスでパネル展示をして紹介、ご意見を頂きます。年内に新しいビジョンを策定し改めて皆さんのご意見を頂きます。(鈴木) 次ページへ続く

ご意見

- ・ボランティア参加者を増やす抜本的な仕組や企業参加の仕組に期待します。
 - ・レガシーとして残すものは子供たちの記憶を変える。新しい人たちがマネジメント会議に新たに加わってくれるようなきっかけにしていきたい。
- プロジェクト参加者を募ります。今まで自然のことについては、自然会議にお任せしっぱなしだったこと。それでよかったのかと考えている所です。明日のオープンハウスではいろいろなものが用意されていますので、ぜひお越しくださいご意見をお寄せください。(松岡リーダー)

5. 新たなミュージアムに関する状況について 市民文化局市民文化振興室

- ・5月の基本方針策定以降、小田急電鉄と通行ルート、ライフラインの設備(給排水、電気、ガス等)交通対策等について、調査・検討を目的として、令和5年8月に「新たなミュージアムの開設候補地に係る協議に関する覚書」を締結しました。今後、「生田緑地ビジョン」の改定や「ばら苑管理運営整備方針」の策定日程との整合性をとり、令和6(2024)年2月頃を目途に基本計画の中間報告を予定。市民ミーティングを10月7日、21日、28日に向ヶ丘遊園駅前にて3回開催予定。各区民祭などでブースを出展、チラシなども配布する予定です。

質疑

- ・市民ミーティングの日程、場所が偏っていないか?⇒場所は向ヶ丘遊園ですが、各区の皆様のご意見を伺います。
 - ・区民祭での展示内容はどんなものか?生田緑地ビジョンとの連動が出来上がっているということか?また、どれぐらいの規模感のものを想定しているのか、自然とどのような折り合いをつけるのか?基本となる情報を知りたい。
- 平時入場できない場所で行われることについて市民が理解したうえで回答できているのか?・建築物の構想イメージなどもっと情報提示したうえで、説明してほしい。・改めて説明会を開催して欲しい、等の意見が市民からありました。など質問があり、会議終了後に改めて質疑の場を作りました。

6. 整備に関する報告 生田緑地整備事務所

- ・ナラ枯れ対策の状況を伝え、ボランティアの皆さんの活動を伝え、次の担い手創りに繋がる動画を制作中です。

7. 令和5年度グリーンスローモビリティ試験走行について まちづくり局交通政策室

- ・今年度の試験走行は11月2日(木)~12日(日)月曜日除く10日間運行。

ご意見

- 向ヶ丘遊園駅~中央広場~西口展望広場間を運行(無料、本番は有料見込)。定員8名、一般市民も乗車参加可能。
- ・稲生橋から東口VC間の雨宿りの場がない、バス停の屋根の設置を検討して欲しい。(飯室谷戸町会)
- ・途中の乗り降りについては動向はどうだったか?(高山平戸町会)⇒今までは試験走行の為、今年度まとめる
- ・バス停名に「枅形山入口」とあるのは緊急時を含め誤解を招きやすい。(葉袋)⇒修正する。

◆その他報告・共有事項

1. 8/19・20 ゴルフ場開放日について 川崎国際生田緑地ゴルフ場支配人

2. 川崎総合科学高校デザイン科生徒自主企画の外来生物講座・ワークショップ開催報告 指定管理者

3. 竹パウダーの活用事例報告 清掃作業への活用事例紹介 指定管理者

◇講和「生田緑地の目標とする自然を考え直すための提案」 倉本先生

薪炭林から燃料革命を経て大径木の林がゆっくと育っていった。ナラ枯れ時代は急速な変化を伴い、自然の力と人間の力のバランスが問われ、土地利用計画や目標植生の変更が必要となった。丘陵地の中には多様な種類の生態系＝自然がある。今までの「目標とする自然の合意形成」は、

- 1)現状維持とするが、これはむずかしい
- 2)時間的な目標 過去の植生 目標とする時代
- 3)空間的な目標 手本になる場所を見に行く。例:早くナラ枯れが発生した東北や関西
- 4)機能から考えて、生態系を組み立てる ・具体的な作業指針を定めてゆくためには専門家が必要。

- ・市役所との協働、丁寧にロードマップを計画する必要があります。

⇒生田緑地ビジョンに反映して欲しい(葉袋)⇒ビジョン改定の課題として受け止めています。(みどりの事業調整課)

- ・自然会議は自然の専門家だけが考えることではない。50年先を見据え、一般市民も一緒に考える必要ある。(倉本)

⇒自然会議に依存しきっていた。今後は目標とする自然プロジェクトを通じてやっていくということです。(松岡会長)

●お問い合わせ先：生田緑地マネジメント会議事務局

生田緑地共同事業体 東口ビルターセンター TEL044-933-2300

川崎市建設緑政局生田緑地整備事務所 TEL044-934-8577